



校長室だより

三刀屋高等学校・掛合分校

第2号

令和3年4月15日

今回は、入学式の式辞を掲載します。

校長室だよりの名前はまだ決まりませんが、今後の掲載内容を考えながら、いずれつけたいと思います。

令和3年度入学式 式辞 (抜粋・一部改変) *本校・分校で共通するところのみ掲載しています。

春の風が、学校に花の匂いや鳥のさえずりを運んでくれる今日の良き日、令和3年度の入学式を執り行うことができますことは、本校関係者一同大きな喜びです。学校を代表し、深く感謝申し上げます。

本来であれば、同じ式場に来賓の方々の御臨席を賜り、また在校生も一緒に皆さんの入学を盛大に祝福するところですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、このような形の入学式挙行となることをどうかご理解ください。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

在校生、教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

保護者の皆様におかれましても、お子様の御入学おめでとうございます。これまでお子様を育ててこられました皆様に敬意を表しますとともに、私ども教職員に課せられた責任の重さに、身の引き締まる思いでございます。

皆さんは、この伝統ある高校の生徒として、本日その第一歩を踏み出すわけですが、ここでの3年間で、皆さんは社会のどこかを支える、なくてはならない人へと成長していくことになります。

そして、この三刀屋高校が、皆さんの成長するステージとなるのです。

折しも先月東日本大震災から10年が経ちました。

新型コロナウイルスが未だ収束しない中、あらためて心に浮かんだ言葉が、「夢と絆」です。

北朝鮮に24年間も拉致され、2002年に帰国された蓮池薫さんがその著書や講演で次のようなことを語っておられます。

「拉致されて北朝鮮に連れてこられ、将来の夢を描くこともできない。家族も友達もまったくいない北朝鮮で、自由もなく、絆もないことにただただ絶望した。」

今私たちががんばっているのは、夢や絆があるからです。東日本大震災からの復興にも夢と絆が欠かせませんでした。夢と絆を大きく育むのが学校です。夢と絆を抱けること、持てることに感謝し、高校3年間でそれぞれの夢と絆をさらに育み、成長して欲しいと思います。そういう思いを込めて

「小さな挑戦、小さな善行、確かな志 ～自立した大人となるために～」という言葉を送り、式辞としたいと思います。これを学校での合い言葉とすることにしました。

人は何もせずに成長することはできません。成長のためには挑戦することが必要です。

小さな挑戦でいいのです。成功しようが失敗しようが、挑戦を通し人は成長します。

だからこそ、学校は、「安心して挑戦し失敗からも学ぶことができる場所」でないといけないと思っています。そして、それぞれが確かな志をもち、あきらめず続けることが大事です。

小さな善行という言葉をつけたのは、自分以外の誰かのためになにかをしようという気持ちや思いやりをいつも持っていて欲しいからです。

廊下のゴミを拾う、なんでもよいのです。それは、誰かが気持ちよく廊下を歩くための行いであり、自分以外の誰かを大切にすることです。マスクの着用もそうです。

マナーは、相手のためにもあることと同じです。相手を気遣う気持ちが、絆のある学校をつくっていくことにつながります。それは、安心安全な環境の中で、学べる学校であることにもつながります。また、挑戦し、成長する過程で得た自信や矜持を次への挑戦と、人への優しさに使える人であって欲しいと思います。

最後に、保護者の皆さまに、お話しいたします。

家庭と学校が協力・連携し、教育に当たることが、何よりも大切なことは、言うまでもありません。連携には、「連絡を密に取り合って、一つの目的のために一緒に物事をする」という意味があります。なにとぞ学校を信頼していただき、家庭と学校との風通しを良くしながら、お子様の成長に向け、一緒に取り組みたいと思いますので、よろしくお願ひします。

3年後の卒業式の際、ここにいる新入生が、心身ともに自立した18歳の大人に成長し、そしてこの高校に来て本当によかったと思ってもらえるよう教職員が一丸となって尽力することをここにお誓ひ申し上げ、式辞といたします。